

■編集後記

2002年から新カリキュラムがスタートした。名古屋校舎では3学部にて体育科目の講義と実技を必修科目とした。また、2003年の秋学期から2年次以上の学生を対象とした「選択体育実技ⅠとⅡ」がスタートする。この科目は以前から学生の要望が強く、旧カリキュラムのコマ数を超えない範囲での学生のためのカリキュラム改善であった。この改善の基礎となったのが1996年から始めた体育独自による学生の授業評価アンケート調査であった。この授業評価がなかったら現在も旧カリキュラムの単なる継承を続けていたかもしれない。今後も学生のニーズを明らかにするとともにカリキュラムの改善努力を続けていかねばならない。

名古屋校舎の一部である車道校舎は大きく変わろうとしている。2004年から法学部2部の募集停止となり、法学部3・4年次の授業が車道校舎で実施される。車道の現在建設中の新校舎には体育施設や運動施設が一切ない（当然ながら体育研究室として車道再開発検討委員会へは体育施設建設の要望書を提出したが、スペースがなくて建設できないとの回答がきた）。学生の運動欲求を満たしたり、貯まるストレスの解消はどこですればいいのか？運動部活動は名古屋校舎に行き活動しろとのことだが、毎日、名古屋校舎へ行かずともちょっとしたトレーニングができる施設を作りたいものである（車道校舎には現在豊富なトレーニングマシンが揃っている）。大学の経営戦略のためにこのように運動好きな学生や運動をしたい学生が犠牲になる状況には大変心が痛む。大学にとって学生のニーズはどうでもいいのだろうか？大学体育教員としてやるせない思いでいっぱいである。

(松岡弘記)

愛知大学体育学論叢 第11号

2003年3月24日 印刷

2003年3月31日 発行

発行責任者 松 岡 弘 記

発行所 愛知大学体育研究室
〒441-8522 豊橋市町畑町1の1
TEL. (0532) 47-4180 内線1405

印刷所 株式会社 荒川印刷